



令和3年度やまがた緑環境税特集号

森林やまがた



上：やまがた緑環境税を活用して整備を行った森林(小国町)
左：第22回砂防林を育てよう(酒田市)
右：やまがた木育人材養成講座(山形市)

目次

- やまがた緑環境税を活用した森づくりに対する県民の声 …2
- やまがた緑環境税を活用する事業展開 ……………3
- 「やまがた木育」推進事業の取組み……………4
- 山形県低コスト再造林技術実証事業の実施状況 ……5
- 各地域における森林整備の取組み……………6

- やまがた絆の森づくり推進事業の取組み ……10
- やまがた緑環境税の評価・検証……………11
- 県民参加の森づくりの推進……………12
- やまがた緑環境税PR活動の取組み……………16

県民の皆様の御協力に深く感謝申し上げます

「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森林を守る事業に活かされています

やまがた緑環境税の活用と カーボンニュートラル社会の実現

NPO法人環境ネットやまがた 二藤部 真澄

やまがた緑環境税が導入されてから、14年が経ちました。

これまで、やまがた緑環境税は、人工林や里山林の整備、住民や市町村、NPO等が取り組む森づくり活動、やまがた木育事業など様々な活動に役立てられてきました。例えば、山では、間伐や下草刈りなどの手入れ、ツキノワグマの生息状況調査、鳥獣の野生復帰事業、里山での環境学習、木に触れ大切さを知る木育事業、木質バイオマス燃料等への利用のための木材の搬出支援など、その活動は多岐にわたっています。

私は、NPO法人環境ネットやまがたに勤務しているのですが、以前に団体で、やまがた緑環境税の補助にて木質バイオマス普及のための事業を行いました。また、企業が取り組むやまがた絆の森の活動にも参加させていただいています。そこでは、社員さんが下草刈りなどの作業をみんなと一緒に汗を流して活動しています。また、親子で参加し、一緒に散策や木工工作などを行い、森の中で楽しく活動しています。やまがた緑環境税の活動には、「森に親しむ人を育てる」取組もあります。

また、「やまがた緑環境税評価・検証委員会」の委員もさせていただいているのですが、そこで活動報告を伺うたび、県内での森づくりの広がりや山形の自然を大切にしたいという活動団体の思いに感心しきりでした。

しかしながら、一方で、やまがた緑環境税には課題もあります。

令和2年に実施された県政アンケートでは、全体の64.4%の方が、「やまがた緑環境税を負担していることも、趣旨も知らなかった」との回答でした。会議でも、認知度がまだまだ低いのではないかと、県民に知っていただくよう広報を工夫する必要があるのではないかと意見も出されました。

現地視察では、やまがた緑環境税を活用した森林整備の現場や木育を実践されている団体の活動を見せていただきました。森林整備の現場では、植樹や手入れなどを行っている現場を拝見し、また、団体の活動では、里山での自然の中で、子どもたちが学び、自然に触れ合っている様子を伺いました。子どもたちがのびのびと活動している様子をお聞きし、このように自然と触れ合える場が増えてほしいと感じました。

2020年、気候変動に対する世界の約束事である「パリ協定」の取組期間がスタートしました。世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて1.5℃に抑えるため、2050年の「カーボンニュートラル」の達成が必要です。「カーボンニュートラル」とは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる温室効果ガスの「吸収量」を差し引いて、合計をゼロにすることを意味しています。山形県では、令和2年8月、2050年までに温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンやまがた2050宣言」を行いました。

カーボンニュートラル社会の実現のためには、家庭や事業所での省エネルギー対策や太陽光発電、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入などを進めるとともに、森林吸収源対策が必要となります。

やまがた緑環境税は、この重要な対策を担っています。

カーボンニュートラル社会実現のためにも、やまがた緑環境税を活用し、森づくり活動や木質バイオマスの利活用を一層活性化していく必要があります。これからも、山形の豊かな自然が未来に繋がるよう、やまがた緑環境税を有意義に活用されることを願っています。



やまがた緑環境税を活用する事業展開について【令和3年度】

R3 やまがた緑環境税活用事業 765,962千円 (うち やまがた緑環境税 682,060千円)

I 環境保全を重視した森林施策の展開【森林環境緊急保全対策事業費】608,454千円(うち やまがた緑環境税 524,552千円)

① 環境保全を重視した森林整備の推進(569,749千円うち 緑環境税 485,847千円)

◇荒廃森林緊急整備事業 事業量 904ha(森林ノミクス推進課:569,749千円 うち 緑環境税 485,847千円)

■人工林整備 事業量 576ha(森林ノミクス推進課:318,795千円 うち 緑環境税 234,893千円)

手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林の整備

やまがた緑環境税による整備 388ha

国庫補助事業を活用した整備(森林環境保全直接支援事業等) 188ha

○針葉樹林維持型

人工林を適正に維持、管理するための間伐や森林作業道の設置等を行う



～多様な樹齢からなる森林が面的に整備され、公益的機能が持続的に発揮される森林～



○針広混交林型

広葉樹との混交の促進を図る強度間伐を行う



～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林～



■里山林整備 事業量 328ha 250,954千円(うち 緑環境税 250,954千円)

病虫害被害で活力が低下した里山林の再生。被害木の伐採や補植等を行う



～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林～



② 森林資源の循環利用の促進(38,705千円)

◇森林資源再生事業

事業量 74ha(森林ノミクス推進課:12,293千円)

森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的に発揮する仕組みを構築するために、再造林に要する経費の一部を支援する。



◇森林資源循環利用促進事業

事業量 46,700㎡(森林ノミクス推進課:25,823千円)

間伐材等をラミナ(集成材)、合板等用材やチップ、ペレット等の木質バイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図る。

◇広葉樹林健全化促進事業

事業量 589㎡(森林ノミクス推進課:589千円)

ナラ枯れ被害木を含むナラ林を伐採し、チップ等への活用併せ、害虫の駆除とナラ林の若返りを図るため、搬出及び作業道の設置を支援する。

II みどり豊かな森林環境づくりの推進(139,902千円)

① 県民参加の森づくりの推進(130,253千円)

【みどり豊かな森林環境づくり推進事業】(みどり自然課:115,649千円)

地域住民や市町村が行う計画的かつ広がりのある活動や地域と連携して行う森づくり活動等への支援

- 1 豊かな森づくり活動 (地域住民との協働による里山林の保全活動)
- 2 自然環境保全活動 (希少野生生物の生息地の保全活動)
- 3 森や自然とのふれあい活動 (子ども達や地域住民に対する森林・自然環境学習)
- 4 木に親しむ環境づくり (木材の地産地消や木育の取組み)

【やまがた絆の森づくり推進事業】(みどり自然課:1,205千円)

企業と地域が連携した森林の保全・活用と里山の活性化に向けた取組みの支援

- 1 企業・森林所有者・県による「やまがた絆の森協定」に基づく森づくり活動の推進
- 2 整備森林のCO2森林吸収量認証による森づくり活動の見える化

【森づくりサポート体制推進事業】(みどり自然課:13,399千円)

地域住民や市町村、企業による森づくり活動を総合的に支援

② 自然環境保全対策の推進(9,649千円)

【生物多様性戦略推進事業(一部)】

(みどり自然課:2,246千円)

自然環境の変化等についての総合的なモニタリング調査

【鳥獣管理推進事業(一部)】

(みどり自然課:5,767千円)

里山など森林に生息する大型野生動物の実態調査

【野生鳥獣捕獲体制強化支援事業(一部)】

(みどり自然課:303千円)

人と野生鳥獣の共生の担い手育成

【大型野生鳥獣等野生復帰事業(一部)】

(みどり自然課:1,333千円)

傷病等で救護された野生鳥獣の復帰支援

III 豊かなみどりを守り育む意識の醸成(17,606千円)

① 森林・自然環境学習等の推進(3,317千円)

【やまがた木育推進事業】(みどり自然課:3,317千円)

- 1 やまがた木育推進委員会の開催
- 2 子どもの成長段階に合わせた木育教材の作成等
- 3 「やまがた木育」を指導できる人材を育成する養成講座の開催等

② みどりを育む意識の醸成(13,046千円)

【みどりの循環県民活動推進事業】(みどり自然課:9,831千円)

- 1 森の感謝祭等の開催
- 2 森を守り、育て、暮らしに活かす「緑の循環システム」を体験する各種イベントの開催(森のホームステイ、木工体験会等の開催)
- 3 やまがた緑環境税の普及啓発PR/パネル展の開催や広報誌「もりあ」の発行、各種情報発信サービスの活用等による普及啓発

【やまがた山水百景魅力アップ事業(一部)】(みどり自然課:931千円)

やまがた百名山探訪マップでのやまがた緑環境税PR

【総合支庁実施事業】(総合支庁:1,492千円)

- ◇村山総合支庁 ・むらやま木育普及体制強化事業(森林整備課)
- ◇最上総合支庁 ・遊学の森づくり推進事業(森林整備課)
- ◇置賜総合支庁 ・おきたま源流の森づくり活動推進事業(森林整備課)
- ◇庄内総合支庁 ・出羽庄内公益の森づくり事業(森林整備課)

【やまがた緑環境税広報啓発事業】(税政課:792千円)

やまがた緑環境税の周知、広報

③ やまがた緑環境税の評価・検証等(1,243千円)

【やまがた森林ノミクス県民会議事業(一部)】(森林ノミクス推進課:96千円)

やまがた緑環境税の活用に係る意見交換、連携促進、情報共有

【やまがた緑環境税評価・検証委員会事業】(みどり自然課:1,147千円)

やまがた緑環境税活用事業の評価・検証等



やまがた木育人材養成講座(受講者によるプログラムの実践)

「やまがた木育」推進事業の取組み

「やまがた木育」推進のためのロードマップについて

(みどり自然課)

◆はじめに

県では、やまがた木育をあらゆる世代に広めていくため、平成30年3月に「やまがた木育推進方針」を策定し、木育推進委員会の提言や助言をいただきながら取り組んできましたが、今年度、やまがた木育を推進する上での具体的な中期的計画（ロードマップ）を作成したので紹介します。

やまがた木育とは

森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直すものです。そして、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくことです。

この活動を通して、森からの恩恵を受けるのみではなく、一人ひとりが森と共に生きていることや、木を活かす暮らしの大切さを理解し行動を起こすことができる人づくりを目指します。

◆やまがた木育推進のためのロードマップ

ロードマップでは、やまがた木育を推進する上での目標を「活動推進環境の確立」「連携・ネットワークの確立」「担い手の育成」の3つに区分しています。

・活動推進環境の確立

やまがた木育推進方針の理念に沿った活動を行うため、地域の特色を活かした「やまがた木育プログラム」を作成します。また、県内4つの県民の森を木育拠点化するための施設整備を進め、「やまがた木育プログラム」を展開していきます。

・連携・ネットワークの確立

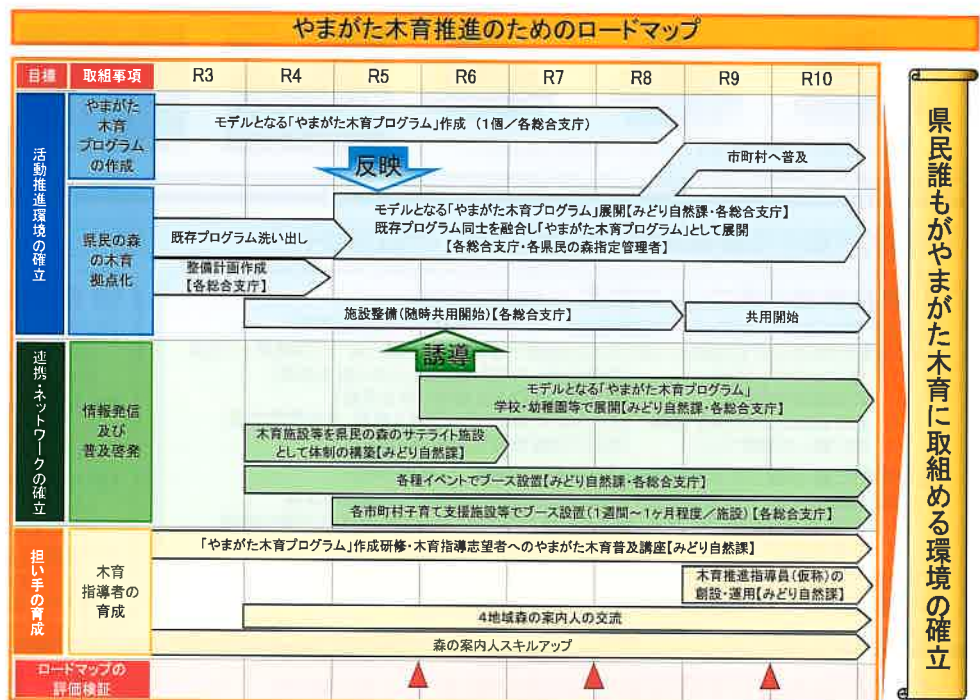
県内の木育施設等をやまがた木育推進のためのサテライト施設として位置付け、やまがた木育プログラムの展開や、やまがた木育体験のブース設置など、身近な施設での情報発信や普及啓発を行います。

・担い手の育成

やまがた木育の目的や思想を理解し実践できる指導者を養成していきます。さらに、木育推進指導員（仮称）を創設し、自立し核となる木育指導者の育成を行います。

◆今後の取組み

今後は、ロードマップによる計画的な取組みを着実に進め、2年ごとに取組み成果の評価検証を行いながら、やまがた木育の理念を実現するための環境づくりを行っていきます。



山形県低コスト再造林技術実証事業の実施状況

(森林研究研修センター)

1. はじめに

山形県の人工林は収穫の時期を迎え、木材生産と循環利用を進めるため、伐採後の適切な再造林に取り組む必要があります。しかし、保育作業に係る経費負担等から、再造林が進まない状況も散見されています。こうした状況は全国的な課題であり、国の研究機関においても低コスト化の技術が検証され、多くの成果が報告されています。森林研究研修センターでは、新しい知見や技術の導入の適否について、H30年度から実証実験による検証を行っておりますので、最新の成果を御紹介します。

2. 事業の内容

県内4箇所の試験地（山形市門伝、米沢市入田沢、鶴岡市早田、遊佐町吹浦）を設け、地拵え・植栽・下刈りについて従来型の施業と低コスト化技術を比較し、植栽木の成長量や下刈りなどの施業時間の削減に繋がるかどうかを調査しています。なお、各試験地の伐採・植栽年月、地拵え方法は（表1）のとおりです。

試験地	伐採年月	植栽年月	地拵え方法
山形市	H30.9	H30.11	機械人力併用
米沢市	H30.3	H30.11	人力のみ
鶴岡市	H29.2	H30.11	人力のみ
遊佐町	H30.3	H30.11	機械人力併用

表1 試験地の施業概要

3. これまでに分かったこと

H30年度にコンテナ苗（雪害抵抗性、2年生、35cm）を植栽し、R3年度まで年間の成長量を追跡したところ、植えてから年数が経過するにつれて、試験地間の樹高差は大きくなりました（図1）。この違いは、競合植物の繁茂状況が要因の一つと考えられます。（図2）は植栽木と雑草木との競合状態を4段階に分類した指標で、C4は植栽木が完全に雑草木に埋もれた状態です。（図3）は試験地の競合状態で、植栽次年度（R元年度）から試験地毎に大きく異なり、伐採から植栽までの期間が空いた鶴岡市ではC4の割合が高い傾向がありました。植栽木の成長は3年が経過しても約100cmと低く鶴岡市の試験地では、下刈り経費を抑えることが難しいと考えられます。

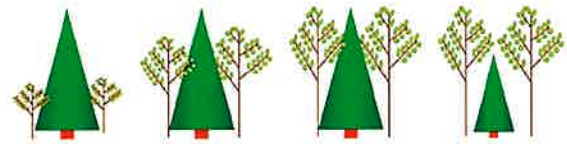


図2 植栽木と雑草木との競合状態 評価指標

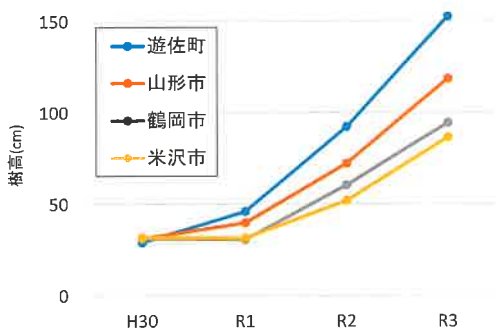


図1 平均樹高成長量

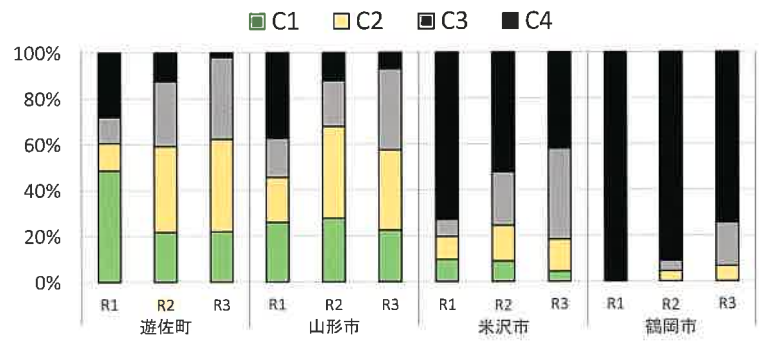


図3 試験地、年度別 植栽木と雑草木の競合状態

同様の傾向は米沢市の現場でも見られ、両調査は地拵えが人力のみで実施しており（表1）、伐採から植栽までの期間とともに、地拵えの程度の差も雑草木の繁茂に影響していると考えられます。なお、R3年度から下刈り回数の削減試験を始めていますが（右写真）、緑色の下刈り省略箇所では植栽木への被圧がさらに進むことが想定されます。成長が比較的順調な他の現場も含めて、今後も追跡調査を実施し、現場条件に合わせた低コスト技術の選択等についても検討していきたいと思ひます。



村山地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

村山地域では、手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林や病害虫被害で活力が低下した里山林を対象に、やまがた緑環境税を活用して平成19年度から令和2年度までに4,725haの森林整備を行いました。これまでも森林の整備を着実に進めてきました。村山管内には荒廃のおそれのある森林が依然として多いことから、次年度以降も森林の持つ自然環境の保全等の公益的機能の維持増進と持続的な発揮に向けて、森林整備を継続していきます。



スギ人工林の整備状況（朝日町）

2. 令和3年度の森林整備について

令和3年度は、森林の公益的機能の回復を目的として、荒廃のおそれのある人工林や病害虫等で活力が低下した里山林の整備等を合わせて283.8haの森林整備と、森林作業道340mの開設を行いました。

また、市町への補助事業として、幹線道路沿いで著しく景観を損なっている里山林の森林景観整備0.1haや、人と動物との共存を図る緩衝林帯(バッファゾーン)13.3haの森林整備を行いました。

更に、森林の持つ公益的機能の維持増進と森林資源の循環利用促進のため、スギ花粉症の発生源対策を兼ねた少花粉スギの再造林1.1ha、成長と強度に優れたカラマツの再造林3ha、その他の再造林を含め計6haの再造林に対して支援を行いました。

〈森林整備の実施状況〉



スギ人工林の整備（河北町）



里山林の整備
（尾花沢市）

緩衝林帯の整備
（西川町）

〈再造林の実施状況〉



少花粉スギの植栽地（西川町）



少花粉スギ(コンテナ苗)の植栽
（西川町）

最上地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

長年人手が入らず、整備されていない荒廃のおそれのある森林について、やまがた緑環境税を活用して間伐等の整備を行っています。平成19年度から令和2年度までに2,760haの森林の整備を行いました。次年度以降も荒廃のおそれのある森林を健全でかつ公益的な機能の発揮ができる森林に導くため、間伐や森林の管理に必要な森林作業道の整備を進め、人と森林が調和できるよう、整備を推進していきます。



間伐による整備（新庄市）

2. 令和3年度の森林整備について

令和3年度は、荒廃のおそれのある森林のうち、スギの人工林等を維持していくための整備を中心に、間伐203.5haとその森林内に、森林作業道3,618mを整備しました。

また、人と野生動物の共存等を目的として、活力の低下した里山林4.9haについて、刈払いや不良木の伐採、枝落しなどの森林の整備を行いました。



間伐による整備（大蔵村）



森林作業道の整備（金山町）



里山林の整備（戸沢村）

3. 再造林への支援について

平成27年度から、積極的にやまがた緑環境税を活用し、伐採跡地の再造林を進めており、令和3年度は39.9haの植栽を行いました。今後も森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的な発揮のため、支援を継続していきます。



令和元年度に行った再造林の現況（真室川町）



令和3年度に行った再造林（真室川町）

置賜地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

やまがた緑環境税を活用した荒廃のおそれのある森林の整備については、平成19年度から令和2年度までに3,566haを実施しました。次年度以降も計画的な森林の整備を進めていきます。

2. 令和3年度の森林整備について

荒廃のおそれのある森林のうち、スギの人工林18haに対して公益的機能の発揮を維持していくための間伐、刈払い等の森林整備を実施しました。また、病虫害などにより活力が低下している里山林111haについては、森林の健全性を回復するための伐倒、玉切り、集積等の森林整備を実施しました。

市町への補助事業として、森林景観整備のための枯損木伐倒を2.5ha、人と動物との共存林整備のための下刈りを25.7ha行いました。

森林の有する公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築するため、8haのスギ、カラマツの植栽に係る再造林経費を支援するとともに、国庫補助事業を活用した搬出間伐及び森林作業道の開設についても支援を行いました。



整備前



整備後

【針葉樹林維持型】

(小国町)

手入れ不足により木が混み合い、生育不良となっていたため、スギ林として公益的機能の発揮が維持されることを目的として、スギが健全に生育できる空間を確保するための間伐を実施しました。



整備前



整備後

【里山林整備】

(米沢市)

松くい虫とナラ枯れ被害を受けて枯損した木が多く立っていました。そのため、倒木等による二次被害の防止と健全な里山林の再生を目的として、枯損木の伐採を実施しました。



整備前



整備後

【再造林】

(白鷹町)

森林資源の循環利用と水源の涵養などの森林の有する公益的機能の持続的発揮を目的として、再造林経費を支援しました。

庄内地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

庄内地域では、やまがた緑環境税を活用し、平成19年度から令和2年度までに荒廃のおそれのある森林の整備を5,900ha実施しました。

次年度以降も引き続き、荒廃のおそれのある森林を健全な森林に導くため、森林の公益的機能が持続的に発揮されるよう間伐等の森林整備を推進していきます。

2. 令和3年度の森林整備について

〈針葉樹林維持型〉

手入れ不足で荒廃が進んでいるスギ林10haで間伐及び森林作業道の整備を実施しました。不良木の伐採により、間伐後の林内には光が入るようになり、森林の健全化を図りました。



〈里山林整備〉

松くい虫被害により、活力が低下している庄内海岸のクロマツ林(55ha)において、枯損木の倒木・枝折れ落下等による二次被害防止のため、枯損木の伐採及び破碎処理を実施しました。なお、伐採木の幹部分については、燃料用チップ等への有効活用を図りました。



〈森林作業道の整備・再造林等〉

林業事業体を実施した搬出間伐(151ha)、森林作業道の整備(22,516m)、再造林(22ha)への支援を行いました。また、市が実施した森林景観整備(0.3ha)への支援を行いました。



やまがた絆の森づくり推進事業の取組み

山形県トラックの森

(みどり自然課)

所在地 山辺町大字畑谷地内 面積：2.67ha

協定者 公益社団法人山形県トラック協会、畑谷地区 23名共有地、山形県

活動内容 公益社団法人山形県トラック協会は、日本経済の物流を担っている事業者団体です。事業の性格上、二酸化炭素の排出は避けては通れない状況であり、環境保全に関する取組みも物流関連事業と同等に重要であると位置づけております。

平成17年から畑谷地区内県民の森隣接地に土地を借り受け、2.75haの土地に約7,000本の広葉樹の苗を植樹しました。今年は、枯死してしまった苗木を補うため、補植会を開催しました。

活動を始めてもうすぐ20年目を迎えますが、近年では持続可能な開発目標「SDGs」が注目を集めており、森づくりは課題解決に直結する活動であると認識しております。私たちは、12番「つくる責任、使う責任」、13番「気候変動に具体的な対策を」、そして15番「陸の豊かさを守ろう」などの課題解決に貢献できるよう、今後も森づくり活動を継続していきます。



モンテディオ山形 未来の森

所在地 天童市大字田麦野地内 面積：2.0ha

協定者 株式会社モンテディオ山形、天童市、山形県

活動内容 株式会社モンテディオ山形は、地域での社会貢献活動、環境貢献活動の一環として、オオヤマザクラ植栽地の保育作業を平成29年から行っています。作業をするのは、サッカー選手の卵であるアカデミーの小学生たちです。生徒たちには、先輩方が植えたサクラを大きく育てるためには手入れが必要であることを伝え、森林を育てることの意義について学びます。

サッカーのチームワークを育てるためには、対戦相手や審判への敬意、仲間への思いやり、支えてくれる人々への感謝など、自分を取り巻く環境への配慮が必要です。健康な森林を育てることも、サッカーで大事にしている精神とつながる部分があると感じています。これからも、生徒たちと共に森づくり活動を継続していきます。





やまがた緑環境税の

(みどり自然課)

見直しを行いました。

◎ はじめに

やまがた緑環境税は、森林の公益的機能の維持増進及び持続的な発揮に関する施策を行うため、県民の皆様から広くご負担いただいているものです。

税事業の効果を検証し、社会情勢の変化等への対応を検討するため、5年を目途に点検、見直しを行うこととされており、前回の見直しから5年経過した今年度、見直しを行いました。

◎ やまがた緑環境税と森林環境譲与税の用途の整理

令和元年度よりすべての県、市町村に森林環境譲与税が交付されていますが、その用途は幅広であり、やまがた緑環境税の用途と重複することから、用途の整理が必要とされました。

県内市町村に対する聞き取り調査を行った結果、市町村では森林環境譲与税を財源として、主に森林経営管理制度に基づく森林の現況調査や意向調査等を実施しており、本格的な森林整備に着手するには時間を要することがわかりました。

このため、これまでの事業スキームは継続し、今後、市町村の森林経営管理制度の進捗状況を確認しながら必要に応じ事業を見直す事としました。

◎ 令和4年度以降のやまがた緑環境税制度と活用施策について

平成29年度から取り組んでいる基本方向や令和8年度までの10カ年計画は継続し、新たな社会情勢の変化等に対応した事業を拡充しました。

また、税額・税率も現状を維持します。

主な見直しの内容については、次のとおりです。

● 環境保全を重視した森林施業の施策

- ・市町村が「森林経営管理制度」に基づく経営管理権を設定する森林については、荒廃森林緊急整備事業の対象から除外

● みどり豊かな森林環境づくりの推進

- ・ニホンジカの生息域拡大に応じた管理体制の強化
- ・食害等モニタリング調査の本格実施
- ・貴重な森林資源の更新手法の検討

● 豊かなみどりを 守り育む意識の醸成

- ・各県民の森をやまがた木育拠点と位置付け機能を拡充
- ・やまがた森の感謝祭を従来の式典型から本格的な植樹を中心とする体験型に転換
- ・ターゲットを明確にした効果的な普及・啓発による認知度の向上



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【地域産材を使用した木製品贈呈(山辺町)】

山辺町と村山地域林業振興協議会では、今年度「村山地域森の感謝祭」の開催地となった山辺町の特徴を活かした地域産材による木製品づくりに取り組みました。山辺町は全国的に有名なニットの町、町では町内産のオオヤマザクラを使った高級ニットの展示にふさわしいハンガーを20本作成し、「村山地域森の感謝祭」のオープニングセレモニーで山辺町ニット同業会に贈呈しました。1本の価格は1万円以上、高級感あふれる逸品です。同業会からは、「早速、東京で開催されるニット展示会で使用したい」とのお言葉をいただきました。また、地域産のスギを使用して製作した木製プランターカバーや、地元企業やボランティア等の協力を得て組み立てた木製ベンチを町内の小学校はじめ公共施設に設置する取組みを行いました。

この取組みは、森の恵みに感謝するとともに町産材の利用及び普及の可能性に気付く機会となりました。公共施設に設置した地域産材による製品も、子どもから大人と幅広い世代の目に触れることにより、木に親しみ、木の良さを知っていただける一助になることを期待しています。



山辺町産オオヤマザクラのハンガー

(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【フロラ山形の取組み】

県内では、植物の現状を調査し、的確に評価できる人材が非常に少なくなっています。

県内の絶滅危惧植物を取りまとめた「レッドデータブックやまがた(植物編)」の調査と執筆の中核を担っているフロラ山形では、若手の人材を育成するため植物の分類に関する室内研修や現地実習を県内各地で開催しています。今年度は、3回の開催で約70名の参加者がありました。

今後も、若手人材の育成により生物多様性の持続的な保全に向けて取り組んでいきます。



【東海大学山形高等学校の取組み】

東海大学山形高等学校では、森林の公益的機能を学び、自分たちの生活と森林との関係をみんなで考えるため、地元の小中学校や森づくり団体と連携し、きのこの植菌や除伐、下刈り、間伐等の森づくり活動を行っています。世代の異なる児童生徒や団体メンバーとの交流等により森林に関する活動の輪を広げ、自身の職業観や人生観を養うことで人間としての成長を期待しています。

今後も、森づくり活動を通して豊かな人間形成に取り組んでいきます。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【鮭川村の取組み】

鮭川村では、村内で自然環境保全活動を積極的に行っている団体に対し、継続的な活動の支援を行っています。地域住民有志による「猿鼻街道保存会」が、日本一小さなトンボで知られるハッチョウトンボや絶滅危惧種のトキソウ等の希少動植物の生息環境を守るための下刈り等の保全活動に取り組んでいます。

また、村内外に対し保全活動の積極的な発信を行っており、その一環として、今年度は6月と10月に希少動植物観察トレッキングを開催し、県内約40名の方に参加いただきました。今後も多くの方から猿鼻街道と湿地帯に訪れてもらえるように、継続的な活動と情報発信を行っていきます。ぜひ、散策に訪れてください！



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【甌山探究会の取組み】

真室川町の甌山探究会は、地域にある「塩根川学校の森」を拠点として、体験型自然環境学習を行っている団体です。今年度は、地域の小学生親子等が参加し、枝打ち体験や、木工工作体験として巣箱づくりを行いました。地域の自然とふれあい、さまざまな経験をすることで、自然の大切さ、故郷の素晴らしさを体感し、一人でも多くの子供達が、地域に住みたい、帰りたいと思う大人に、育ってくれることを期待しております。



【つのかわ里山の再生プロジェクトの取組み】

つのかわ里山の再生プロジェクトは、戸沢村角川の「広際院」裏山を拠点に、ナラ枯れによって荒廃した里山の再生を目指して、枯れ木の伐倒、生い茂った笹の刈払い作業、酸性化した土壌を中和するための炭撒き、そして敷地内で採取したドングリから育てた苗を植樹する活動をしています。また、観察会を通じて、里山が再生する過程を会員相互で確認し合い、森づくりの意識向上を図っています。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【白鷹町の取組み】

白鷹町では、今年度より「林政係」が新設され、民有林の整備促進や林業木材産業の活性化、緑化関連活動と森林教育について総合的に取り組む木育活動の推進に力を入れて取り組んでいます。

近年、ニーズの高まりをみせる木育活動では、延べ100名以上の小学生が学校周辺の樹木や草本について学び、森林図鑑や探検マップを作成したり、町産木材の温もりを感じながら木製イス作りに挑戦するなどの体験学習を行いました。児童達は慣れない作業に苦戦しながらも、森林に“触れ”、木材から“創る”ことを楽しみ、関心を深めていました。また、森林の多面的機能や白鷹町の里山文化と歴史を盛り込んだフィールドワークで活用できる副読本を作成し、より多くの人々の、森林や自然を“知る”機会の創出を目指しています。

今後も、白鷹町の森林への関心を高める取組みが期待されます。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【早坂山あるき隊の取組み】

同隊は、米沢駅の南東部に近い万世町の早坂山を拠点に、森林環境学習に取り組んでいます。

今年度は、散策路の倒木を利用して展望所等に丸太ベンチを設置したほか、支障木を利用して散策路肩の補強を図るなど、森林資源を有効に活用しながら散策路を整備し、自然観察会の参加者等に森の活用方法について説明を行いました。

今後も山歩きを通じて自然のすばらしさや森林資源の活用について学ぶ活動を実施していきたいと思えます。



【南陽市小滝区の取組み】

同区は、白鷹山の登山道・遊歩道を活用した自然観察会を実施するとともに、登山道・遊歩道周辺の支障木除去や草刈り作業を行っています。

毎年、白鷹山の夏山開きには、南陽市・白鷹町・山辺町の小学生が登山体験を通して山頂で交流を図り、白鷹山の自然と触れ合い、地域の伝統や文化を知ってもらう学習会を開催しています。

また、今年度は、南陽市吉野緑の少年団と協働して、遊歩道沿いに樹名板を設置し、森林学習の場としての充実を図りました。

今後も登山者に白鷹山の自然のすばらしさに関心を深めてもらえるよう活動を実施していきます。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【遊佐町の取組み】

遊佐町では、町の海岸線を南北 10kmに渡って広がるクロマツ海岸林、西山地区の砂防林を保全するため、地元のボランティア団体と協力し、クロマツの植林事業、松くい虫予防対策の樹幹注入、枝打ち等の森林整備ボランティアを実施しております。

例年、保安林内の松くい虫被害による伐採跡地等に植林を実施してきましたが、今年度については、令和元年度に引き続き、日本海東北沿岸自動車道内に設置されているボックスカルバート上で植林事業を実施しました。保安林内を南北に走る位置に設置されたボックスカルバート上への植林は将来的に、周囲の保安林と一体となって、地元住民を飛砂、強風から守ってくれる大切な存在になってくれるものと期待しております。

なお、遊佐町では地元の小学生が参加する体験学習として各事業を実施しており、今の保全活動がクロマツ林の存続のみならず、後継者の育成といった未来を創る活動であるとの認識を次世代にも繋げていきます。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【荒倉散策道愛護会の取組み】

荒倉散策道愛護会は、鶴岡市立上郷小学校の6年生による植樹・森の散策・講師による自然環境学習等を実施し、地域住民の協力を得ながら森林環境整備に対する理解を深める体制づくりをしています。毎年学校と実施している桜の木の植樹は今年度で7年目となりました。

荒倉山散策道は、平成4年に作られ、地域住民の有志の皆さんで環境整備を進めてきました。これからも環境整備をしながら皆様に安全で楽しんで頂ける森林環境づくりに取り組んでまいります。



【庄内町清川地区振興協議会の取組み】

清川地区には、地区を風水害から守るため植林された杉林「御殿林」があります。戊辰戦争の戦場となり所縁深く、地区住民にとって身近な杉林です。

清川地区振興協議会では、地区内外の子どもから大人まで広く参加者を募集して、散策路へのチップ材敷や、ヤマユリの植栽・環境整備などを行っています。

多くのみなさんから御殿林に親しんでいただくとともに、地区の大切な自然資源を後世にしっかりと受け継いでいきたいと思っております。



やまがた緑環境税PR活動の取組み

県では、県民の皆様へ「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途など、制度全体の仕組みのほか、やまがた緑環境税活用事業実績の周知を図るとともに、森づくりの大切さについて理解を深めていただくため、各種イベントや普及啓発活動を行っています。

● 森林所有者を対象とした 説明会の開催

県内各地の森林組合等では、毎年森林所有者向けにやまがた緑環境税活用事業の説明会を開催しています。

● やまがた緑環境税普及啓発広報誌 森と人をつなぐ「もりしあ」の発行 情報誌

【年2回、各20,000部】

やまがた緑環境税の認知度向上を図るため、事業の取組状況や森と人との関わりを親しみやすい内容で紹介しました。

より多くの県民の皆様にお読みいただくため、県内各地の公共施設や金融機関、ショッピングセンターなどに配布しました。



● PRパネルの巡回展示

【21箇所(R3.4~R4.2)】

県内各地の公共施設や大型ショッピングモールなどでパネル展を開催しました。パネルの展示にあわせて、木工クラフトなどの体験を行うなど、家族連れにも周知を図りました。



● 新聞・フリーペーパー・ラジオ・ インターネットバナー広告を活用した普及啓発

【新聞広告：年1回 ラジオCMなど】

やまがた緑環境税の認知度 50% (R2：33.5%) を達成するため、新聞広告やフリーペーパー、ラジオCM、インターネットバナー広告を活用した普及啓発を行いました。



★ 今後もより分かりやすく、より身近に感じてもらえるような
PR活動に取り組んでいきます ★